

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 竹之内 篤
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

総務係 「チーム学校」に係る学校課題解決への取組 ～事務職員特配校の実践～

『事務職員が、学校で扱う業務の改善を目的とした検証を行い、業務改善を主導することにより、事務職員の資質向上を図るとともに、教員が専門性を発揮できる環境の整備や学校の組織力向上を図る』ことを目的に、本県では平成27年度から学校事務職員の特配を配置しています。利根沼田管内では、平成29、30年度に沼田市立白沢小学校に配置し、「チーム学校」に係る学校課題の解決に向けて取組を進めていただきました。

白沢小学校の実践事例

白沢小学校では、学校事務職員が組織マネジメント能力を発揮して、学校全体の業務処理に係るマニュアル等を作成するなど、学校全体の業務の“見える化”“スリム化”を推進し、効率的な学校運営を図ることと、すべての教職員が各々の専門性を発揮できる環境の整備や学校の組織力向上を目指し、様々な実践を行いました。

その中の実践例として、事務職員が調整役となり、各担当の情報をつなぎ、児童の活動まで結び付けた事例(事例1)と、業務の流れを示し、システム化を図った事例(事例2)を紹介します。

【事例1】「ヒヤリハットマップ」の作成

校内で児童が安全に生活するために留意させたい情報は、各担当が保有しています。

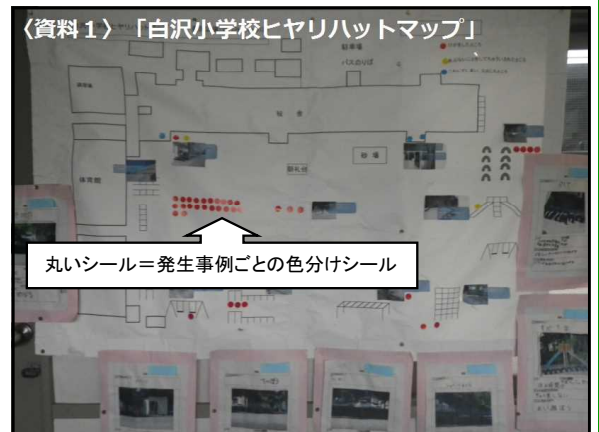
- ・保健担当：「児童がけがをしたところ」
- ・生徒指導担当：「危険箇所での注意をしたところ」
- ・事務担当：「不注意による破損で修理したところ」
- ・安全担当：「点検による危険箇所情報」

本校では、これらの情報を共有することにより、担当間の連携を図ることが重要であると捉えました。

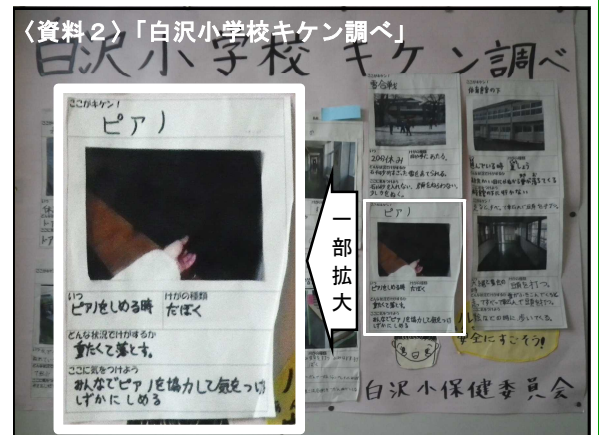
具体的には、個々の情報を校内地図に落とし込み、発生事例ごとに色分けシールを貼り、視覚的注意を促すものです。例えば、校庭でけがをした箇所には22個の赤シールが貼られました。視覚的に危険箇所の注意喚起を促すことにつながります(資料1)。さらに、養護教諭の働きかけにより保健委員会活動と結び付け、児童が作成した追加の掲示も行いました(資料2)。児童が見つけた危険箇所の情報と合わせて掲示したことで、安全に生活することへの児童自身の意識を高めることができました。

【事例2】「修繕の流れ」の具体化

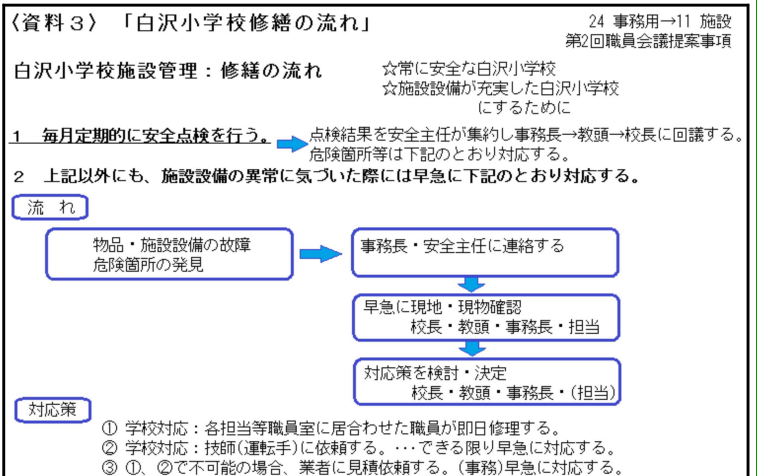
危険箇所が発見された際、その対応は曖昧になりがちです。安全点検で指摘されても対応が先送りになってしまうことがあります。そこで、「施設管理・修繕の流れ」(資料3)を作成し、資料中の『流れ』にあるように危険箇所や修繕箇所発見者は速やかに関係職員と連絡を取り合い、その後修理や業者へ連絡するなど、即日の対応を徹底しました。これにより、毎月の安全点検時には危険箇所の報告がほぼなくなりました。



丸いシール＝発生事例ごとの色分けシール



一部拡大



今回は、学校が有機的に機能するための担当間連携と、その仕組みづくりに関する事例を紹介しましたが、研究ではさらに地域との連携協働推進や働き方改革に関する検証にも取り組んでいただきました。学校において内外の資源を有効に活用しチームとしてマネジメントすることが重要であり、そのことを各担当が意識することで、確実に学校課題の解決を図っていくことにつながります。